

年 組 名前:

問1

北杜市のブドウ栽培などを手がける会社は、
 なんとという栽培方法で
 シャインマスカットを
 生産していますか。

シャイン栽培 根を制限



北杜の企業

ブドウ栽培などを手がけるエバークリーン北杜（北杜市白州町白須、山田春樹代表）は、根の分布域を制限する「根域制限栽培」で、シャインマスカットを生産している。通常の露地栽培に比べ早期に収穫ができ、ハウス内で栽培するため雨にぬれず病気も発生しにくく、収量の安定化が図られるという。4月には北杜市内に約8畝の農場を整備し、2025年に約20トンの収量を見込んでいる。

病気に強く、早期収穫可能

同社によると、シャインマスカットの根域制限栽培は、不織布でできたポットに苗木を植え、根が伸び続けないようにする。根を一定程度にしか伸ばさないようにすることで、枝の成長に使う栄養を果実に集約することができ、露地栽培は最初の収穫まで4〜5年かかるのに対し、2年に短縮できるという。

露地栽培のように2〜3メートルの高さに広く棚は作らず、約150センチの高さに張ったワイヤに一つの苗から4〜5ほどシャインマスカットの根域制限栽培をしているハウス

〈山本昂輝〉

問2

4月に完成した農場には、
 シャインマスカットの苗木を、
 なん本を植えましたか。

約.....本

か枝を伸ばさないため、「コンパクトなサイズで収穫も比較的楽にできる」（同社担当者）という。ポットにはチューブが取り付けられ、必要な量の水が自動的に注入される。同市白州町の地下水を使用している。

2年前から本社そばに整備を進めていた8畝の農場が4月に完成。ハウス23棟を準備し、シャインマスカットの苗木約4500本を植えた。ハウス内で雨にぬれることがないため病気が発生しにくく、安定した収量の確保が可能。来年には約20トンを収穫できる見込みで、成木となる4〜5



年後には200トンを目指している。農場を整備したエリアは水はけが悪く、シャインマスカットの栽培に適していなかったため、ポット内で苗木を育てられる根域制限栽培を検討した。同社の担当者は「ブドウ栽培は収穫できるまでに時間がかかり、すぐに収益化できず新規参入しにくい。根域制限栽培では早期の収益化が図れる上、高品質で安定した収量が確保できるなどさまざまなメリットがある」と話した。

問3

今後は作業の効率化のために、なにを導入しますか。

問4

シャインマスカット以外に、どのような果物の栽培を予定していますか。

(2024年6月25日付 山梨日日新聞7面)